

高速鉄道

写真は、現在急ピッチで建設中の哈大鉄路。「哈」とは黒龍江省ハルビン市、「大」は遼寧省大連市のこと。全長 904 キロを最高時速 350 キロ、4 時間で結ぶ。総投資額は 980 億元、日本円にして 1 兆 3 千億円。着工 2007 年 8 月、完成 2011 年、驚くべきスピードである。



現在、瀋陽—大連（約 400 キロ）は、車で 4 時間半、高速列車で 4 時間かかるが、哈大鉄路が開通すると 1 時間 20 分に短縮される。ちなみに北海道だと、札幌—稚内（396 キロ）は、特急スーパー宗谷で 6 時間かかっている。瀋陽から吉林省長春までは 1 時間、黒龍江省ハルビンまで 2 時間 40 分でいけるようになる。すでに開業しているに中国版新幹線「和諧号」に乗ると北京まで 3 時間 51 分。ところで、北京までの鉄道料金は片道 261 元（約 3500 円）で、飛行機だと 800 元だから、なまら安い。みなさん、中国国内旅行の際には、安全・清潔・格安な鉄道を利用しましょう！

正司 毅

My cop（露語ムサール：ゴミ）について

日本ではゴミは決められた種類に分別し収集日も決められ、その後はリサイクルにまわされるものやゴミ焼却場での処理が一般的です。しかし当地では（日本風にいえば）各町内会に設置された高さ 1m 以上ある鋼鉄製の箱に、全てのゴミ（生ゴミ、缶ビン、廃材等）を分別せずに捨て毎日（年中無休）収集します。その後は日本のように焼却せず、ユジノ市郊外にあるゴミ捨て場にそのまま廃棄されます。



そこは「ゴミ山」と呼ぶにふさわしい程うずたかく積みあがり、カラスが群れ時折自然発火し煙が上がる様は当地に滞在する外国人からは「Smoky Hill」と呼ばれております。周辺環境に悪影響を及ぼしていることから、州政府・市役所など当局や当地企業もこの「環境問題」を重要課題として位置づけているものの、改善策はまた見出されていないのも事実です。



時期には「サクラマス」を、また幻の魚「イトウ」も釣ることが出来るほど自然環境良好なサハリンですが、今のうちに対策をとらなければいずれ絶滅ということになりかねません。

對馬 雅弘

7月駐在員レポート 「中国不動産バブルの状況」 ～マンション編 ③～

前回はお休みしましたが、不動産バブルについて続けたいと思います。北京のマンションの価格は未だ上がり続けていますが、ではマンションはまだ購入できない様な人達は一体どの様なところに住んでいるのでしょうか。高層ビルやマンションから少し行くと昔ながらの平屋建てがまだ沢山残っています。そのアンバランスさも‘中国らしさ’をかもし出しています。また、学生や会社勤めをし始めた若者達は今日本でも広まりつつある「シェアリング」が一般的です。平均 3～5 人くらいで住んでおり、家賃は身近な人達からシェアリングをする限り 2,000 元から 5,000 元（1 元 14 円換算で 30,000 円から 60,000 円程）くらいのを頭割りしているとの事です。歴史を辿れば中国は「四合院づくり」という門や庭、水場を複数の家族で共有して生活する共同生活をするのが一般的でした。その流れが踏襲されているのか共同生活には口を揃えて皆違和感はないと言います。

中島 康成